

Honjo Rotary

国際ロータリー第2570地区 第4グループ



本庄ロータリークラブ会報

No.49-17 第 2358 回 例会 2011 年 11 月 10 日 (木) 11 月 24 日 (木) 発行

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011～12 年度国際ロータリー会長 カルヤン・パネルジー 第 2570 地区ガバナー 立原雅夫
会長 狩野輝昭 会長エレクト 橋本恒男 副会長 三宅健吉 八木茂幸 横尾セツ 幹事 横尾 巧

《本日の例会》

卓 話

進 行 SAA
点 鐘 午後 12 時 30 分 狩野輝昭 会長
国 歌 君が代
ソング 奉仕の理想

〔会長挨拶〕

狩野輝昭 会長



皆さんこんにちは。本日は GSE (グループ・スタディ・エクスチェンジ) の方がオーストラリアから参っております。ご紹介いたします。

Mr. マーカス マウリンズ

Mrs. アンジェリア マウリンズ

Mr. デビット ハイジ

Ms. ティナ ラング

奨学生のジョン君も来ています。どうぞ盛大な拍手でお迎ください。

今月はロータリー財団の月間と世界インターアクト週間です。本日は地区財団委員長の松本委員長・副委員長の福山様。委員の井桁様をはじめ、奨学生予定の井上さんなど沢山の訪問者が有ります。松本委員長には卓話を頂くことに成っていますので、後ほどお願いします。

さて、先月は植樹・親睦旅行・本庄警察への慰問など盛り沢山の行事があり、社会奉仕委員会や親睦委員会のご協力で深く感謝したいと思います。また、今月は地区大会や楽市への参加が決定しております。楽市の商品を早めに提出頂くようお願いいたします。

また、地区大会は義務出席です。ぜひ全員の参加をお願いしたいと思います。

10 月 30 日は地区米山奨学会セミナーが有りました。春山カウンセラー・橋本エレクト・狩野が出席いたしました。地区委員として当クラブの加藤パストガバナー・坂本優蔵会員も出席しております。

本日はスケジュールが立て込んでおりますので、会長の時間を早めさせていただきたいと思ひます。

〔幹事報告〕

横尾 巧 幹事



- ・平成 24 年度新春賀詞交歓会開催の案内が本庄商工会議所より届いています。
- ・ガバナー月信 11 月号が届いています。当クラブのガバナー公式訪問が掲載されています。
- ・ガバナー事務所よりロータリー東日本震災復興基金についてのお知らせが届いています。
- ・ガバナー事務所より入会 3 年以内会員研修のお礼が届いています。
- ・ガバナー補佐より地区大会でのお願いが届いています。
- ・国際ロータリー年次大会参加旅行のご案内が届いています。
- ・レッツボランティア No 67 号が本庄市ボランティアセンターより届いています。
- ・本庄市ボランティアグループ連絡会より連絡会研修会についての案内が届いています。

米山奨学生へ10、11月の「奨学金」渡し

〔地区報告〕

第2回会員増強セミナー

2570地区入会3年未満セミナー

米山記念セミナー、カウンセラー会議

会長幹事会報告

〔委員会報告〕

地域活性化委員会

五十嵐敦子 委員長

楽市について

講習修了書贈呈

大野 寛会員、飯塚章治会員、斉藤 一英会員

「ロータリーの友」より感想発表

広報雑誌委員会 笠原 勝 副委員長

11月の会員誕生祝い

萩原達夫 11月22日

真下恵司 11月9日

11月の会員結婚祝い

岩淵富男 11月1日

岡崎正六 11月8日

須永秀和 11月9日

藤井 仁 11月7日

横尾 巧 11月22日

土屋 進 11月8日

〔来訪者の挨拶〕

R財団補助金奨学委員

井桁 憲治様(熊谷東 RC)

第9630地区 マーカス様



〔卓話〕

第2570地区ロータリー財団部門委員長

松本 光司 様



国際ロータリー第2570地区R財団現況報告

1、2010～2011年度寄付金状況と今年度の地区目標

西川年度 寄付金状況

(会員1784名2010年6月30日)

年次寄付 207,274, \$24¢

使途指定寄付 71,822\$16¢

恒久寄付 41,416\$47¢ 合計 321,631\$32¢

2011～2012年度R財団寄付金地区目標

(会員1735名2011年7月1日)

年次寄付 個人レベル一人100ドル

「毎年あなたも100ドルを」

クラブレベル一人50ドル

年次寄付として150ドル

地区目標として260,250ドル

恒久寄付 クラブレベル一人20ドル

地区目標として34,700ドル

使途指定寄付(チャレンジ・寄付金)

クラブレベル一人30ドル

合計200ドル地区目標として52,050ドル

合計347,000ドル

R財団のシェアシステムにより3年後の2014年～2015年度に使用されます。

2011～2012年度寄付金状況 2011年7月1日～9月30日速報

年次寄付 7,073,56ドル 恒久寄付 12,995ドル 使途指定寄付 22,145,13ドル

2、GSEについて

西川年度でオーストラリア第9630地区より、GSE団員が来日予定が、3月11日の地震、原発の問題等の影響もあり来日を中止致して居りました、再度来日希望がございまして、西川年度の地区会合のあり、立原ガバナーのご参加を頂きまして、吉田前GSE委員長より報告を受けまして、立原年度で受け入れを行う事となりました。

西川年度で受け入れを頂く内容は決まって居りましたが、各クラブへ再度のお願いを致しますので宜しくお願い致します。(平成24年3月25日～4月21日の間)

3、地区補助金申請状況について

西川年度では9クラブ 14,350\$をご利用いただきました。

今年度は地区補助金 2万\$を申請致しまして受理されております。

P G 用途につきましては人道的分野、環境保全分野に限りませう。

前期申請クラブ

入間 R C 月桂樹苗木植栽事業

(東日本大震災復興支援)

所沢中央 R C 精神障害者支援施設への製麺機及び付帯設備等寄付

入間南 R C 入間市博物館「アリット」植物再生計画

本庄 R C 本庄学童保育の会支援事業

前期分としまして9月26日に締切り4クラブの申請を受け付けました。申請内容につきましては事前に日本支局に確認致しまして10月3日付で仮承認、10月15日 R 財団地区役員会で申請書文言を修正し地区として承認致しました。

後期分の受付を始めておりますのでご検討いただきたいと思ひます。

4、R 財団国際親善奨学生について

1947年1月27日に、ポール・ハリスがシカゴの自宅で亡くなりました。財団はポール・

ハリス基金を設け、敬意を表したいロータリアンに対して財団寄付をお願いしました。

70カ国以上、30万人以上のロータリアンがロータリーの創始者の死を悼み、翌年7月迄に

130万ドル以上の寄付が寄せられました。

1947年に最初の R 財団プログラムが実現しました、高等研究奨学金と呼ばれるもので1年目は、米国、ベルギー、英国、フランス、メキシコ、中国の18名が選ばれ奨学金が送られました。日本での奨学生は緒方貞子さんが有名ですが、近年話題となりました、NASAの宇宙飛行士山崎直子さんも R 財団奨学生のお一人です。

西川年度で選考致しました R 財団国際親善奨学候補生は、小川あいさん(所沢 R C)

湊めぐみさん(新所沢 R C) 井上正子さん(志木 R C)の3名です。

年5回のオリエンテーションを予定致して居りますが第1回が9月3日に行われました、当日は鈴木ガバナーエレクトより、世界の交通事情などのお話を頂きました。

オリエンテーションを通して、R 財団国際親善大使と致しましての自覚と、日本、埼玉県について、地区、クラブの現況などのほか、留学先でのスピーチテクニック「メラビンの法則」自己紹介「elevator pitch」などのガイダンスを学友が中心と成り行っております。

年度申請は毎年10月1日が提出の締切日ですが、先日9月20日、茂木委員長より

日本支局へ一学年度の R 財団国際親善奨学金の申請を行いなした、9月30日にエバンストンより申請書受理と、2011年12月15日までに指定教育機関の通知が有る旨の連絡を頂いて居ります。3名の候補生が第一希望の大学に入るにはかなりハードルが高い様に思ひますが、候補生の一生を左右する留学と成りますので、委員会と致しま

しても学友会と協力致しまして、締切日より早く提出が出来ました事に一先ず安堵いたして居ります。

立原ガバナー年度募集に付いて

9月17日に2570地区学友会会長・顧問の学友に参加を頂き2013年度~2014年度奨学生についての話し合いを行いました、学友会の意見をうかがう会議でもありました。

2570地区は1985年から140名を超える国際親善奨学生を世界各国に派遣致して参りましたが、2013年度よりの「未来の夢計画」では、国際親善の冠がなくなり新地区補助金の一部としての奨学金と成ります、従いまして国内外の大学生・大学院生・幅広く高校生にも奨学金を授与出来ることと成りますが、2570地区学友会は他の地区に類を見ない R 財団への貢献を頂いて居ります。又、R 財団の目標の一つとして R 財団学友との生涯にわたり関わりを持ち続け、学友がロータリアンと成る日を夢見て P G を行っております。

2013年より「未来の夢計画」による新地区補助金による奨学金に付きましては、去る、10月15日の第2回 R 財団地区役員会におきまして奨学生の募集を踏まえ一応の結論を出しました。詳細につきましては12月募集案内と共に各クラブ宛でご連絡致します。又各クラブへの募集案内ポスター、選考方法、オリエンテーションの見直し、コストの削減など検討いたしました。

5、ポリオ撲滅活動とチャレンジ寄付金について

11月2日現在の発症状況です。

パキスタン・ナイジェリア・アフガニスタン・インドの4カ国は野生株保有国
パキスタン 136名(昨年144) アフガニスタン 47名(昨年25) ナイジェリア 42(昨年21) インド 1(昨年42) 野生株保有国 226名
非野生株 チャド 116名(昨年26) DRC コンゴ 85名(昨年100) コートジボワール 35名(昨年0) など
タジキスタンは今年0(昨年457名)
非野生株国 276名 合計 502名 (昨年同期 732名)
昨年1年間 1349名

注 中国での発症は野生株の1型と判明 野生株保有国5カ国

ビル&メリンダ・ゲイツ財団とのチャレンジ寄付金について

2007年12月と2009年1月の管理委員会により2012年6月までに2億ドルのチャレンジ寄付金を誓約いたしました。

2570地区目標は2012年6月までに324,000\$、要請は1クラブあたり年2,000ドル

3年間で6,000\$ 地区はロータリアン一人180\$と読み換えまして、真下年度よりお願い致して参りました、2011年8月26日現在世界で1億8,690万\$となった模様です。(2億ドルは達成した模様)今年度一人30\$をお願い致しておりますが目標の324,000\$はほぼ達成できた模様です。チャレンジ寄付金へのご協力に感謝致します。

国際ロータリー1978年4~5月の理事会は国際ロータリー75周年の記念事業として、「保険、飢餓追放および人間損尊重補助金プログラム(Health Hunger and Humanity Program)いわゆる3-Hプログラムを設立し、これは

1979-1980 ロータリー財団に引き継がれます、このプログラムの目的は、国際間の理解、親善及び平和を推進するための方法として、人々の健康状態を改善し、飢餓を救済し、人間的社会的向上をはかる事にあります。

1979年、フィリピンのザビノ・サントスパストガバナー(1971-1980)年により国際ロータリーにポリオ免疫接種事業を行ってくれるように、という手紙を出しました、ポリオ予防ワクチンの必要性、国内外の諸機関の協力、ロータリアン及びロータリークラブの協力などが考慮された結果、フィリピンは、3Hプログラムによる、最初の大規模免疫接種活動をするのに最適であると、認められました。1979年9月、生後3カ月から36カ月の600万人にたいして、5カ年計画のポリオ免疫接種活動が始まりました、この活動が国際ロータリー最初のポリオ撲滅活動と成りました。(国際ロータリー75周年基金から補助金が授与されました。)

日本の活動(ポリオ・プラスプロジェクト先駆け)

1981年東京麹町RC(258地区現2580地区)は3-Hプログラムの「インドはしか免疫プロジェクト」の派遣ボランティアとし山田彝さんと峰英二さんの二人を派遣、南インドで同プロジェクトの指導に奉仕致します、早くからポリオの惨状に深い関心を寄せ、同クラブの設立15周年事業「南インド・ポリオ免疫プロジェクト」を提唱し100万円を基金として1982~1983年度に南インドにワクチンを送り、地元のロータリアンと協力して、子供たちをポリオから救う計画を立てました、第258地区と第275地区の賛同を得て、2つの地区の世界社会奉仕(WCS)プロジェクトに発展しました。

この報告がポリオ撲滅運動提唱の原動力になり国際ロータリーのポリオプラス撲滅運動に発展しました。

日本でのワクチン投与について

日本でのワクチン投与の実施率が70%に低下傾向と有りました、原因としてポリオワクチン投与に起因して数例の発症が報告されていること等国内での不活化ワクチンは臨床試験段階で早くても2年待たないと完全移行にはならないと有りました、神奈川県では輸入して不活化ワクチンに切り替えるとの報道ですが、医療事故が起きた時に対応が認められないなど問題が有るようです。又保険適用外と成り輸入ワクチンは全額自己負担で1回4,500円~1万円と高額に成る模様です、一日も早い政府の対応が求められていると思います、欧州は不活化、米国は2,000年に不活化以降発症報告は無、インド、アフガニスタン、アフリカは今も生ワクチンが使用されています。

去る10月24日が世界ポリオデーでした、日本政府はパキスタン、アフガニスタンへ

無償援助を行う方針であるとの報道が有りました、「ポリオ撲滅は国際ロータリーコーポレートプロジェクト」すなわちポリオの撲滅をしない限り次のプロジェクトは採択しないということに成って居ります。

6、R財団の投資収益について

リーマンショック以来2008~2009年度投資合計6億110万\$に対して1億6,390万\$のマイナス 2009~2010年度投資合計6億7140万\$に対して5430万\$のプラスとなり、2011年4月26日のロータリーニュースでは2010年に投資方針等の見直しを行い2010~2011年度の速報で

は1億3千万\$のプラスとなり 80%を回復したとの報告が有りました、詳細は12月のロータリーウェブサイトに掲載され、2012年1月にR財団年次報告書として各クラブ宛送付されますので、是非会員皆様で国際ロータリーの年次報告と合わせてご確認いただきたいと思います。

7、東日本震災復興基金 日本委員会報告

2011年7月1日に発足致しましたが、第1回の報告書が届きました。

2011年9月7日現在

現金寄付 US\$ 2,667,218 DDFによる寄付 US\$ 1,405,034

総計 US\$ 4,072,252

34件のMG承認(2011年6月30日まで申請承認分 US\$1,094,577

日本委員会PG承認(8月6日までの15件) US\$765,740,47

9月7日現在残高 US\$2,211,934,53

東日本震災復興基金 ポイント対象寄付は2011年12月31日迄

基金への申請 2012年3月31日締め切り 2012年6月30日申請審査終了

8、未来の夢計画について(2013年度より)

R財団は1917年アトランタ国際大会において、アーチC・クランプが「全世界的な規模で慈善・教育・その他社会奉仕の分野でより良き事をするために基金を作ろう」と提案したことに始まり、1928年の国際大会で「ロータリー財団」と名付けられました。その後1983年にイリノイ州の法令の下に、非営利財団法人となりました。以来「世界で良いことをしよう」と標語の下多くのPGを開発実行してまいりました、しかしあまりにも多く

の事を行ったためこれが返ってあたとなってしまいました。マッチンググラントを例に致しますと1965年~2000年の35年間に1万件の申請件数でしたが、2000年~2004年に1万件、2004年から2008年に1万件と管理委員会は大量のロータリアンからの申請を処理することが難しくなりました、管理費が増え続けPGに使用できる寄付金へ影響を与える様になりました、R財団管理委員会は2017年に100年を迎えることを踏まえて、時代に即したR財団の存在意義を活動の焦点と定めて取り組む必要があるとし、5つの目的をかがげました。

5つの目的

- ・財団の使命に沿って、プログラムと運営を簡素化する、
- ・ロータリアンが関心を寄せている世界の優先的ニーズに取り組むことによって、最大の成果が期待できるロータリアンの奉仕活動に焦点を絞ること。
- ・世界的目標と地元の目標の両方を果たすための資金を提供すること。
- ・意思決定件をさらに地区とクラブに移行することによって、地区レベルとクラブレベルで、ロータリー財団が自分たちのものであるという自覚を高めること。
- ・ロータリー財団の活動に対する理解を深め、ロータリーの公共イメージを高めること。

5つの優先事項（未来の夢計画作成にあたり）

- ・プログラム運営の簡素化
- ・未来の夢計画に沿ったプログラム
- ・地区あるいはクラブレベルで「自分たちの財団」と自覚すること
- ・目標達成のための十分な資金と人材の提供
- ・計画を支える効果的な方策の開発

大きな成果と長期的な持続が望めるプログラムを目指して、財団プログラムをできるだけ簡素化し、R財団の第2世紀に向けての計画が「未来の夢計画」Future vision planという事になります。

【ニコニコBOX】

松本光司様（坂戸さつきRC）

「本庄ロータリークラブの皆様、本日はお世話になります。」

井桁憲治様（熊谷東RC）

「本庄RCの皆さま、こんにちは、私にとって初めての訪問ですが、今月はオーストラリアからのお客様と一緒に参加させていただきます。第9630地区チンチラRCのマーカス会員とアンジェリーナとご友人のデイビッドMr.とティナさんです。マーカス君のご両親も立派なロータリアンで素晴らしいロータリーライフを送っています。今日は、マーカス君の希望でこの地区を代表する本庄RCに訪問させて頂きました。茂木さんの心のこもったお計いに感謝申し上げます。」

福山健朗様（川越小江戸RC）

「本日は宜しくお願い致します。」

狩野輝昭

「GSEのご一行様本庄RCへようこそおいで下さいました。」

「松本様、本日は卓話よろしく申し上げます。」

「楽しい親睦旅行沢山の参加ありがとうございました。」

「楽市の商品の提出よろしく申し上げます。」

横尾巧

「松本様、本日は卓話よろしく申し上げます。」

茂木 聡

「Ms.マーカス&Mrs.アンジェリーナご夫妻、Mr.デイビッド&Ms.ティナ遠くオーストラリアからようこそ本庄ロータリークラブへ。」

「R財団部門委員長松本光司様、世界平和フェロー担当副委員長福山健朗様、GSE担当委員井桁憲治様ようこそ本庄ロータリークラブへ。」

「国際親善奨学候補生井上正子さん今日のアテンドよろしく申し上げます。」

橋本恒男

「お客様、よくいらっしゃいました。」

関根 貢・下山正男・中島高夫・横尾セツ

「R財団部門委員長松本光司様、よろしく申し上げます。」

澁澤健司

「第2570地区R財団部門委員長松本光司様
第2570地区R財団補助金奨学副委員長福山健朗様
第2570地区R財団補助金奨学委員井桁憲治様
奨学生候補生井上正子様、ようこそいらっしゃいました。」

萩原達夫

「先日は秋の親睦旅行ご参加ありがとうございました。」

五十嵐敦子

「皆様のご協力で「みどりの埼玉県民事業植栽」「本庄警察署訪問」盛大に行うことが出来ました。ありがとうございました。また、11月27日商業祭「楽市」につきましても、皆様のご協力をよろしく申し上げます。」

八木茂幸

「皆様楽市への出品宜しく申し上げます。」

斉藤一英

「第3回本庄市長杯中学野球大会が無事終了することができました。とてもありがとうございました。」

井河彰久

「前回のしづや会ゴルフコンペにて優勝致しました。」

金井福則・内野昭八郎

「移動例会では、大変お世話になりました。」

渋谷修身

「ラ・ロシェルのご食事とてもおいしかったです。」

〔出席報告〕

会員数	出席免除 会員数	出席義務 会員数	出席 会員数	出席率
72名	5名	67名	56名	83.6%

次回プログラム発表

11月24日（木）PM6:30～ 第2例会（夜間例会）
埼玉グランドホテル本庄 第2回ゴルフコンペ表彰式

広聴広報委員会 山田喜一・笠原 勝・金井福則・境野三郎

例会日 毎週木曜日 12:30～13:30

事務所 埼玉グランドホテル本庄700号

〒367-0041 本庄市駅南2-2-1

TEL 0495-22-7522 FAX 0495-22-3571

例会場 埼玉グランドホテル本庄

Eメール honjorc@themis.ocn.ne.jp

ホームページ

<http://www.globals.jp/hp/HRotary/index.html>